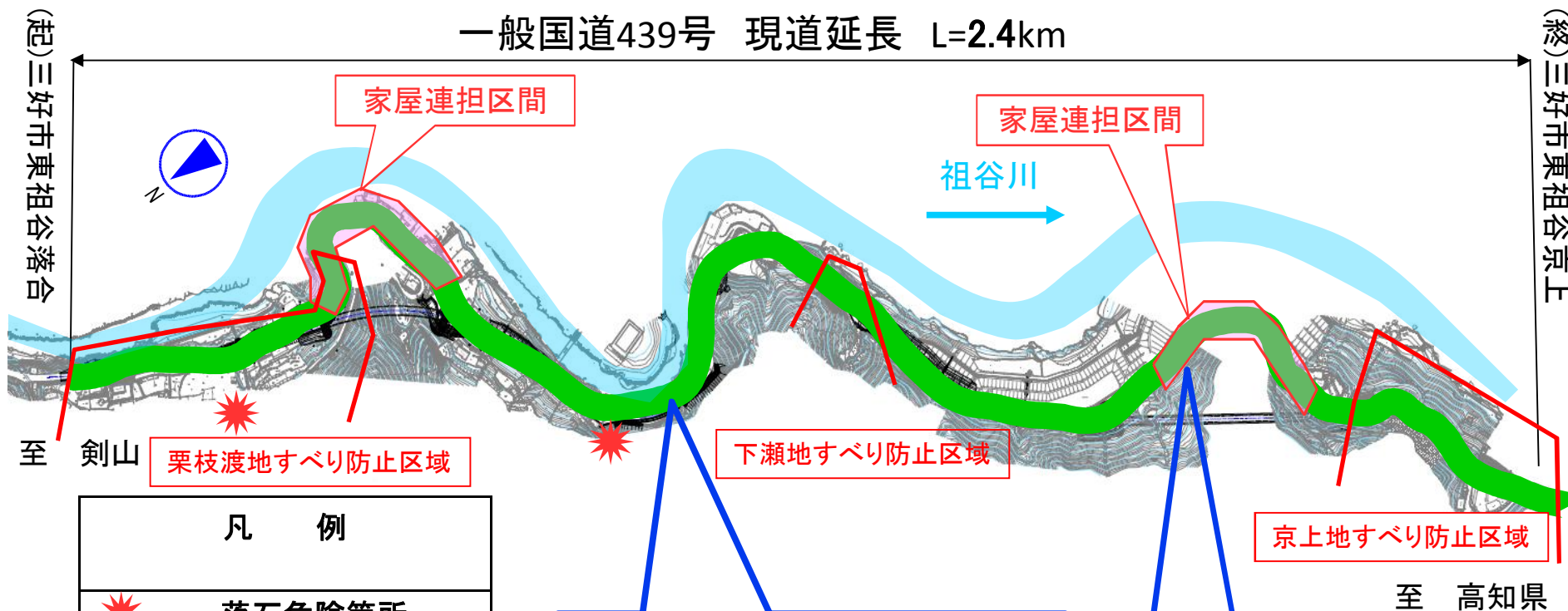


再評価【番号1】

一般国道439号
落合バイパス

1. 現道の道路交通上の課題

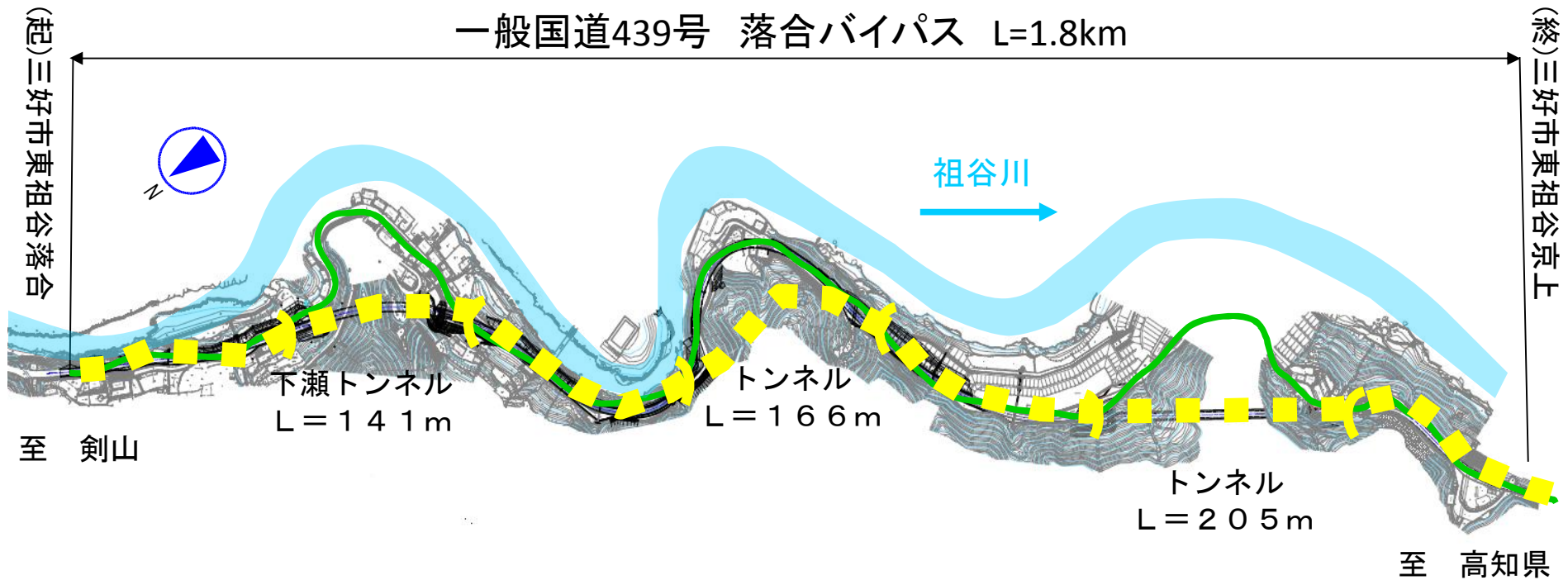


凡 例	
	: 落石危険箇所
	: 現道
	: 地すべり防止区域

- ・ 連続する幅員狭小区間 (家屋連担区間)
- ・ 見通しの悪いカーブの連続
 - ➡ 車両の対向が困難
 - ➡ 歩行者の安全性の低下
- ・ 落石危険箇所(2箇所)
 - ➡ 安全な通行に支障



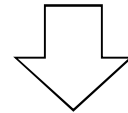
2. 事業概要



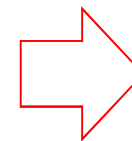
位置図



当初計画(H22評価時)
トンネル:3箇所(計512m)
を含むバイパス計画
全体事業費37億円



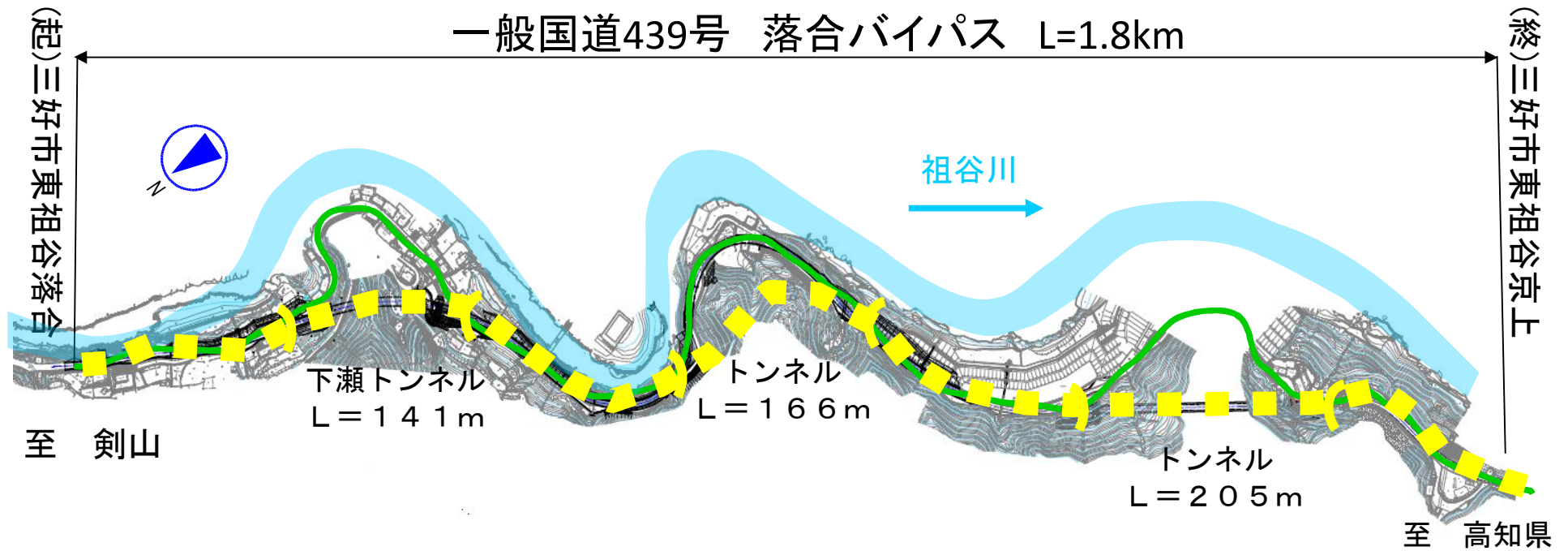
下瀬トンネルを含む工区内において、斜面崩壊が発生し、工事費が増大



残る2箇所のトンネルについて
事業費:増大
事業期間:長期化
の懸念

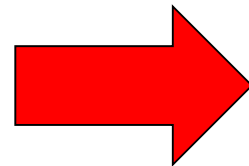
凡 例	
H22評価時ルート	
現道	

2. 事業概要



凡 例	
H22評価時計画ルート	---
現道	—

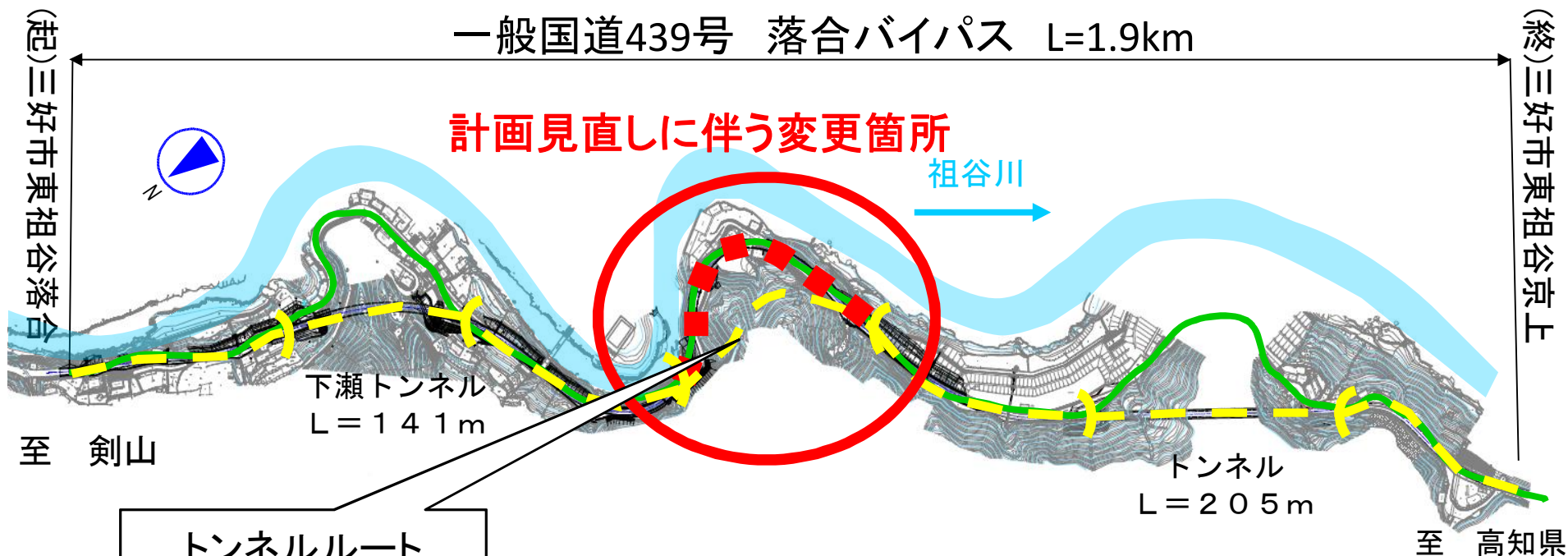
工事費: 増大
事業期間: 長期化
の懸念



平成22年度 評価時		
工種	箇所数・延長	工事費
トンネル	3箇所・512m	13.8億円
現道拡幅	1,288m	23.2億円
合計	1,800m	37.0億円

現計画を変更せず実施した場合		
工種	箇所数・延長	工事費
トンネル	3箇所・512m	21.0億円
現道拡幅	1,288m	26.0億円
合計	1,800m	47.0億円

2. 事業概要

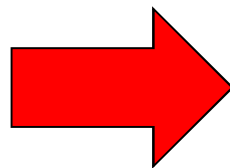


トンネルルート
↓
現道拡幅ルート

- ・コスト削減
- ・効果の早期発現のため計画変更

凡 例	
H22評価時ルート	—
現道	—
現道拡幅ルート	—

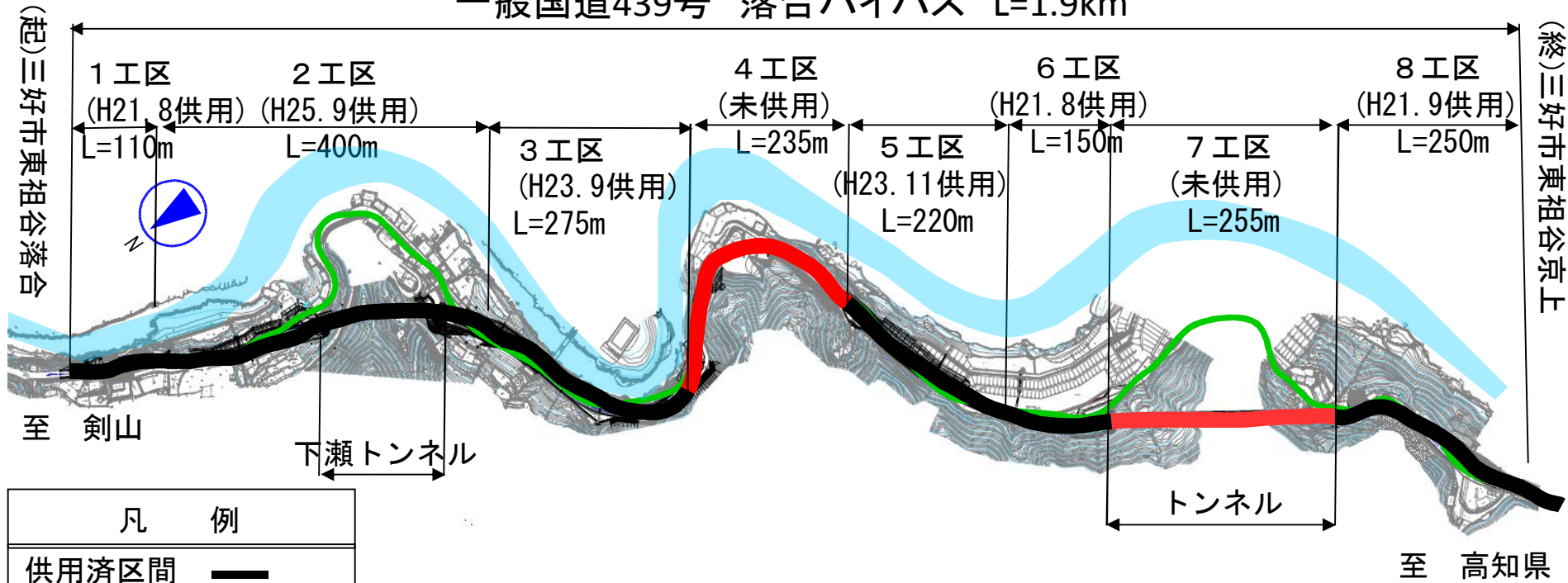
現計画を変更せず実施した場合		
工種	箇所数・延長	工事費
トンネル	3箇所・512m	21.0億円
現道拡幅	1, 288m	26.0億円
合計	1, 800m	47.0億円



計画変更した場合（トンネル工→現道拡幅）		
工種	箇所数・延長	工事費
トンネル	2箇所・346m	12.9億円
現道拡幅	1, 549m	29.1億円
合計	1, 895m	42.0億円

3. 事業の進捗状況

一般国道439号 落合バイパス L=1.9km



凡 例	
供用済区間	— (Black line)
現道	— (Green line)
未供用区間	— (Red line)

2工区供用状況

5・6工区供用状況

下瀬トンネル起点側



下瀬トンネル終点側



4. 事業評価結果

貨幣価値換算可能な整備効果

- ・ 走行時間短縮便益
 - ・ 走行経費減少便益
 - ・ 交通事故減少便益
- 計 **50.6億円**
(現在価値化後)

※費用C=47.6億円 (現在価値化後)

$$\frac{B}{C} = 1.1$$

+

その他の便益

計 **14.0億円**
(現在価値化後)

医療

- ・ 救命率の向上効果 13.8億円

環境

- ・ 大気汚染や温暖化防止効果 0.2億円

(参考) その他の便益を含む $B/C = 1.4$

貨幣価値に表れない整備効果

防災・減災

- 緊急輸送道路ネットワークの強化
⇒ 道路の走行性、安全性が向上
- 防災拠点等へのアクセス強化
⇒ 地域防災力が向上

安全・安心

- 安全・安心の確保
⇒ 現道における人家連担区間を迂回し、歩行者の安全を確保
- 救急車両のアクセス向上
⇒ 地域住民の安心感の向上

産業振興

- 観光地へのアクセス強化
⇒ 観光を中心とした産業振興

5. 道路整備による多様な効果【貨幣価値換算可能な整備効果】

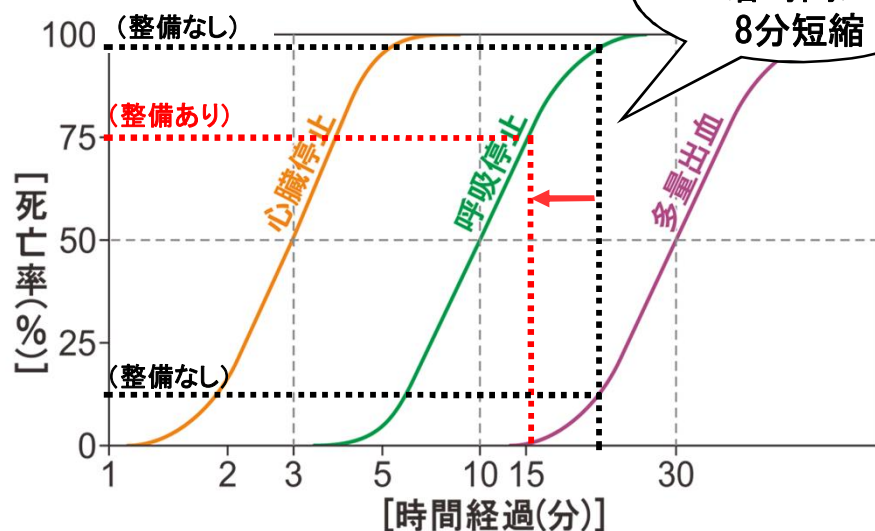
◎その他の便益

医療

■救急医療へのアクセス向上効果

- ・西祖谷分署から集落までの**救急車両到着時間が短縮**されることにより、**救命率の向上**が見込まれる

【カーラーの救命曲線(例)】



- ・呼吸停止の死亡率が**約20%低減**
- ・多量出血の死亡率が**約15%低減**

救命率の向上効果 : 13.8億円

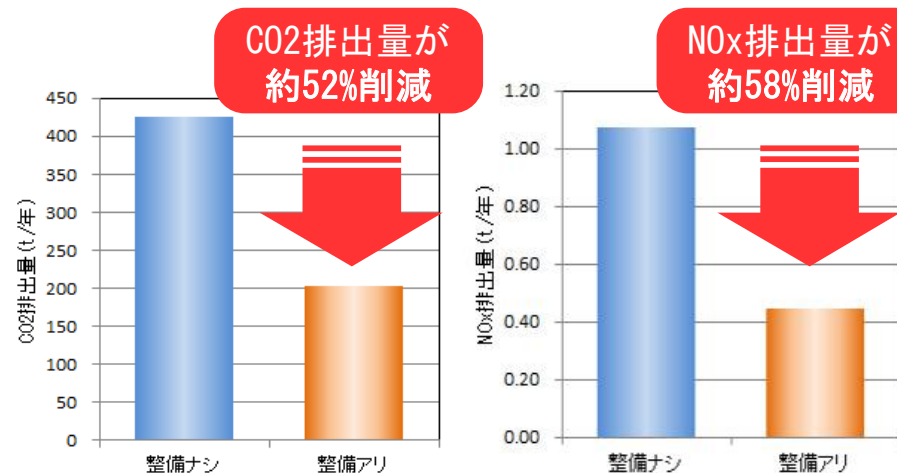
環境

■大気汚染や温暖化防止効果

- ・**CO₂、NO_xの排出量が抑制**されることにより、**大気汚染・温暖化防止効果**が見込まれる

【CO₂排出量】

【NO_x排出量】



大気汚染・温暖化防止効果: 0.2億円

5. 道路整備による多様な効果 【貨幣価値に表れない整備効果】

防災・減災 ●効果：災害に強い道路ネットワークの構築

①緊急輸送道路ネットワークの強化

- ・幅員狭小、線形不良の解消

【最小幅員3.5m →7m】

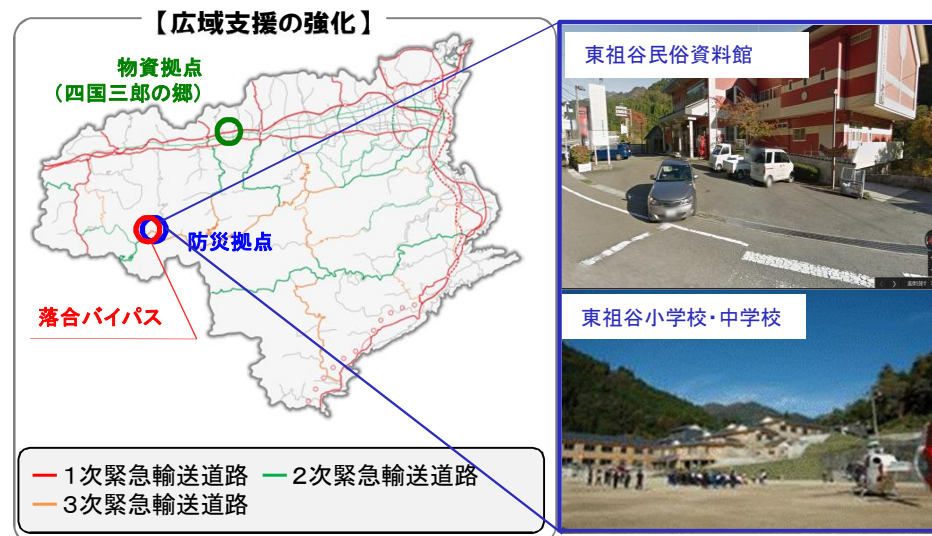
- ・落石危険箇所の解消

→ 道路の安全性が向上

②防災拠点、避難場所へのアクセス強化

- ・県立三好病院などの災害拠点病院へのアクセスの向上

→ 地域防災力の向上



安全・安心 ●効果：地域の安全安心の確保

①安全・安心の確保

- ・連続した線形不良区間の解消
- ・家屋連坦区間を避けた道路計画

→ 歩行者の安全性の確保

②救急車両のアクセス向上

→ 地域住民の安心感の向上



※イメージ

5. 道路整備による多様な効果 【貨幣価値に表れない整備効果】

産業振興 ●効果：地域経済の活性化

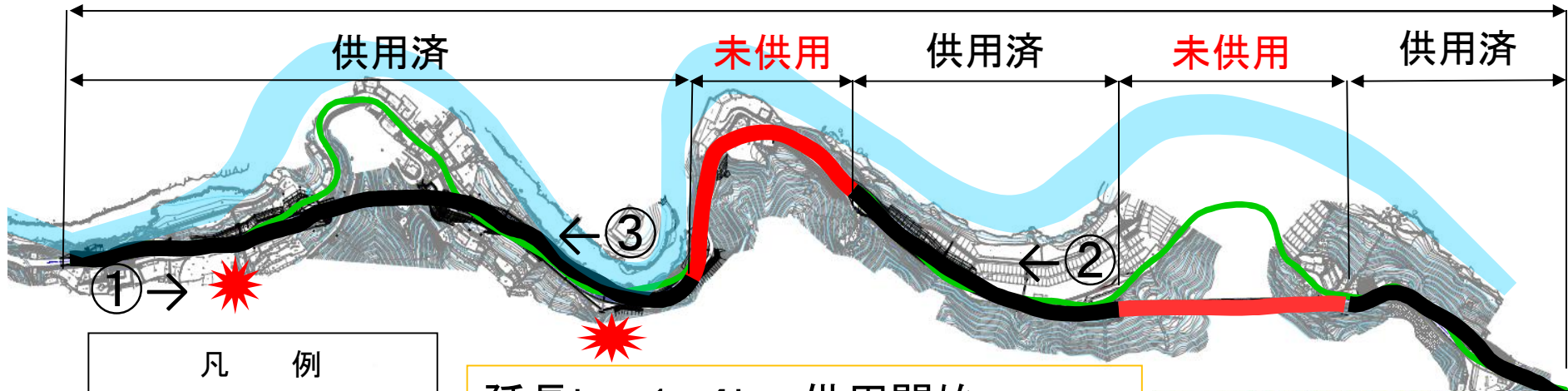
①観光地へのアクセス強化

- ・「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」内の観光地へのアクセスの向上
⇒観光を中心とした地域振興



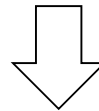
6. 短期的な投資効果

一般国道439号 落合バイパス L=1.9km

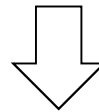


凡 例	
供用済区間	—
現道	—
未供用区間	—
落石危険箇所	★

延長L=1.4km供用開始
道路幅員3.5mから7.0mに改良



時間: 6分短縮
延長: 0.4km短縮
落石危険箇所2箇所を解消



安全・安心の確保
アクセスの向上

整備後状況①



整備後状況②



整備後状況③



7. 道路整備によるストック効果

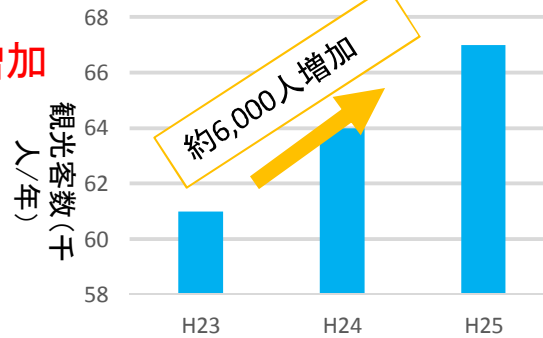
①「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」内の観光地へのアクセスの向上

⇒剣山への観光客H23年から6,000人増加
 体験型観光宿泊客がH21年から倍増
 外国人観光客H19年から約8倍に増加

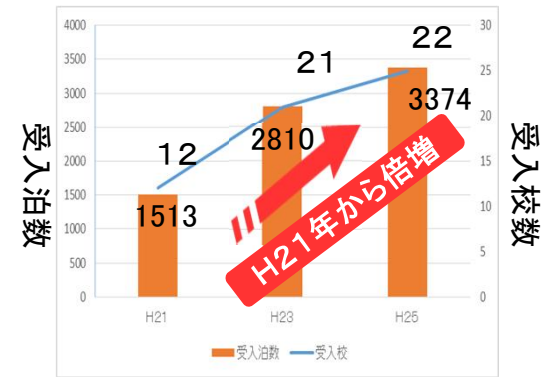
②イベント開催による地域の活性化

⇒自転車イベント「ツール・ド・にし阿波」に約1,000人の参加者

剣山への観光客数、伸び率



三好市体験型教育旅行受入状況



落合集落



アレックス・カー氏は落合集落を「桃源郷のような別世界」と表現した。

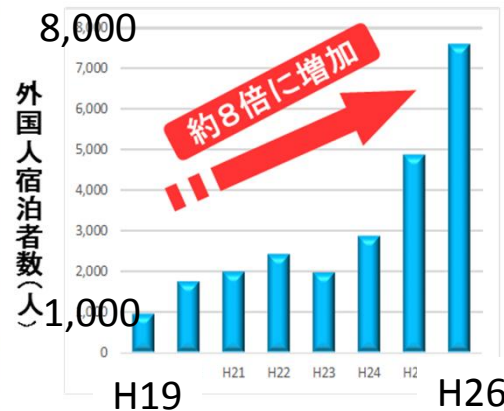
剣山



古民家



三好市の外国人宿泊者数の推移



ツール・ド・にし阿波

